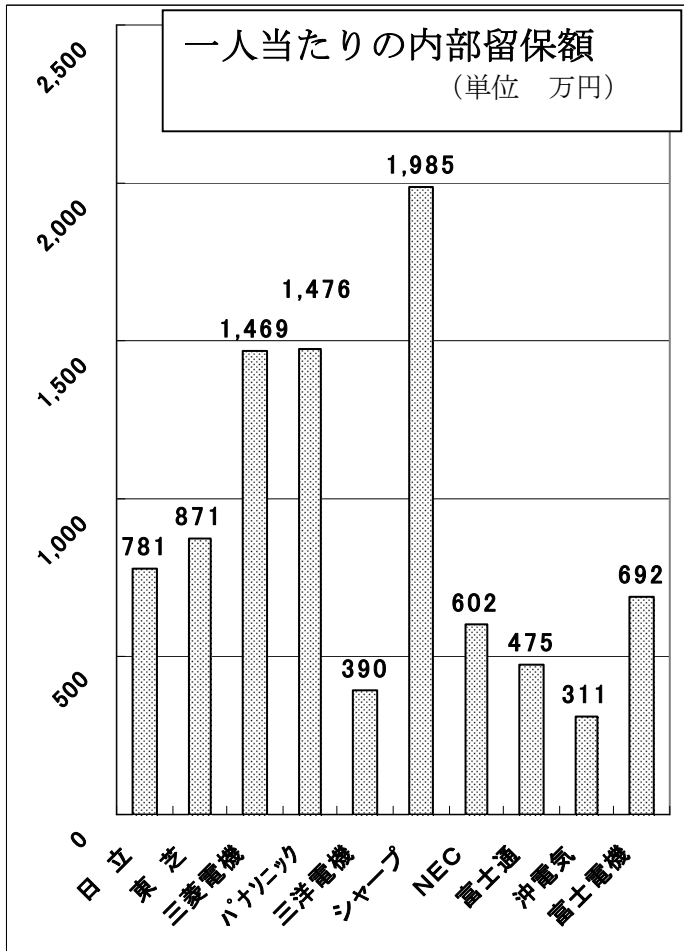


# 労働者の雇用と生活を守る春闘に！ 三菱電機のため込みの一部を回せば満額回答できる



これまで大儲けしてきた自動車や電機など輸出大企業を中心に「派遣切り」「期間工切り」が行われています。景気のいいときは、非正規労働者を低賃金で働かせ大儲けしながら、ひとたび不景気となれば、真っ先に解雇するとは企業のモラルも、大企業の社会的責任も果たしているとはいえません。

**株主や内部留保を優先して「派遣切り」**

雇用の確保や春闘の賃上げ要求に応えるには内部留保の一部をまわすだけで十分です。経営に影響するような額ではありません。三月末までに職を奪われると予想されている約四十万人（一人平均年間三百万円で計算）の雇用を維持するのに大企業がため込んだ内部留保の1%で可能なのです。財界は株の「配当性の向上」を政府にとめ、政府も配当にかかると税金を二十%から十%に軽減するなど「貯蓄から投資へ」とおっしゃいました。このもとで企業は配当ばかりを優先し、賃金や下請け単価は据え置いてきました。

## 三菱電機のため込みは膨大

この間、三菱電機は、正社員を二万人も減らし、期間工や派遣社員に置き換えてきました。成果主義賃金の導入による賃金抑制や一時金もわずかに増やしただけ、他産業に比べると低い水準にとどまっています。内部留保を急増させ一人当たり一千五百万円もためこむなど驚くほどの利益を上げています。

三菱電機は膨大なため込みをしてきており、春闘の賃上げや「期間労働者」「派遣労働者」の雇用を守ること、帰休時の賃金を百%保障することなど、労働者の要求に応えるだけの十分な体力を持っています。

## 雇用を守り、賃上げし、 内需を増やすことが景気を 回復する道です

日本の自動車や電機産業は極端な外需に依存になってきているため、今回の経済危機の影響をもろに受けるもろさを露呈しました。この構造を内需中心の安定したものにしていくためには、雇用を守り、賃上げをするなど内需を増やすことが、労働者のくらしにとっても、電機産業の将来にとっても、きわめて重要になっていきます。

電機労働者懇談会三菱電機(京都)  
連絡先 重本 信子  
Tel・fax 075-922-2369 2009.3.13